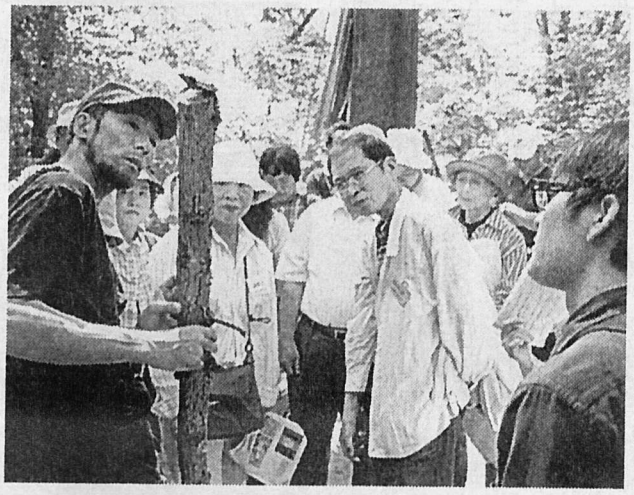
京都新聞

2008年（平成20年）8月22日　金曜日

第3種郵便物認可

京大植物園の観察会で、有元高太さん（左）から地衣類の説明を受ける参加者たち（京都市左京区）



京大植物園

観察会6年目に

染色作家　コケの魅力案内

京都大理学研究科付属植物園（京都市左京区北白川追分町）を広く知ってもらおうと、研究者や職員、学生でつくる「京大植物園を考える会」の月例観察会が、六年目を迎えた。二十一日は「苔じゃないコケの話」をテーマに、近年少なくなっているコケを探した。

観察会は、さまざまな生き物がいる生態植物園として教育研究に活用されてきた植物園（一九二三年設立）を守り伝えようと、二〇〇三年四月から始まった。研究者が植物や昆虫、鳥など毎月テーマを設け、市民らを対象に案内している。

この日はキャンパス近くで多目的スペース「なぞやしき」を主宰する染色作家、有元高太さんが、コケの一つの地衣類について、菌類と藻類の共生体であることや、環境の変化に弱く開発で減っていることなどを説明した。また、樹皮や岩についたヘリトリゴケなども示し、「ルーペでのぞけば、そこに広い世界がある」と話した。

観察会の日程とテーマは、考える会ホームページで紹介している。